

千葉県匝瑳市（国内 42 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 3 年 2 月 4 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、平野部に位置し、付近は水田に囲まれている。
- ② 農場から最も近い調整池までは約 1.1km あり、調査時にはコガモ 1,530 羽、カルガモ 34 羽、ハシビロガモ 23 羽等、1,500 羽以上の水鳥類が、農場から約 1.4km の距離にある公園の池ではカルガモ 111 羽が確認された。
- ③ 当該農場には 7 棟の成鶏舎、2 棟の育成鶏舎及び 1 棟の育雛舎があり、成鶏舎は金網や防鳥ネットが設置された開口部のあるセミウィンドレス鶏舎や高床式の開放鶏舎であったが、いずれの鶏舎も天井部分の給気口を除く開口部はカーテンで閉鎖されていた。発生時には、稼働中の全ての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。発生鶏舎は、農場中央側に位置するセミウィンドレス鶏舎で、金網式の床で仕切られた 2 階建ての成鶏舎であった。
- ④ 当該農場には、約 14.1km の距離に同一飼養管理者の疫学関連農場があるが、飼養管理者によると、両農場の間で鶏の移動はないとのこと。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は、2 月 2 日までは 1 日あたり 2~4 羽程度で推移していたとのこと。
- ② 2 月 3 日に、発生鶏舎 1 階で 31 羽の死亡鶏が確認され、このうち鶏舎奥側の列の手前側のケージで、複数羽がまとまって死亡しているケージが複数認められたことから、かかりつけの獣医師を介し、家畜保健衛生所に通報したとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では 11 名の専属の従業員のうち 9 名が鶏舎管理と集卵・出荷作業を担当し、残り 2 名は、集卵・出荷作業のみを行っていた。9 名については担当する作業は固定されておらず、全ての作業を交替で行っていた。
- ② 飼養管理者によると、毎日鶏舎において、集卵前の健康観察と死亡鶏の回収、給水、給餌装置の確認等を行っていたとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、従業員が農場に入る際は、農場専用の作業着、長靴及び手袋を着用していた。また、鶏舎に入る際は、鶏舎専用の長靴に交換するとともに、手袋を着用した手指を消毒していたとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。
- ③ 飼養鶏への給与水は地下水を使用しており、消毒は実施していなかった。
- ④ 発生鶏舎の鶏糞は除糞ベルト、スクレーパー及びベルトコンベアで鶏舎から堆肥舎まで直接運搬され、堆肥化していた。堆肥舎には防鳥ネット等は設置されていなかった。
- ⑤ 飼養管理者によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、農場内の死亡鶏処理装置で発酵処理した後、鶏糞とともに堆肥化していたとのこと。
- ⑥ 飼養管理者によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っていたとのこと。
- ⑦ 飼養管理者によると、普段は農場入口に消石灰の散布を行っていたとのこと。

- ⑧ 飼養管理者によると、車両が農場敷地内に入出入りする際、農場入口に設置された動力噴霧器で消毒を行っていたが、近隣農場での発生以降、全ての車両が消毒ポイントで動力噴霧器により消毒を行っていたため、農場入口では車両消毒ゲートで消毒を行っていたとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎の鶏舎構造は、鶏舎手前側のダクトと天井部分の給気口から給気し、鶏舎奥側の換気扇で排気するタイプの鶏舎であった。ダクトの入口と天井の給気口にはフェンスが設置され、排気用の換気扇の外側には開閉可能な板が設置されていた。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場敷地内ではネコやカラス等が確認されることがあるとのことであり、調査時にも、農場敷地内でネコやカラスが確認された。
- ② 飼養管理者によると、鶏舎内でネズミを見かけることがあるとのことであり、ネズミ対策（捕殺や粘着シートの設置）を実施しているとのこと。調査時にも、鶏舎内でネズミの糞が確認された。
- ③ 鶏舎から集卵施設までの集卵ベルトの経路には全てカバーがされており、壁面との境目には、開閉式のシャッターが設置されていた。
- ④ 鶏舎から堆肥舎まで鶏糞を運搬するベルトコンベアの経路には全てカバーがされていたが、発生鶏舎の隣接鶏舎では、ベルト上に小型ほ乳類のものと思われる足跡が認められた。